

西 邑 楽 高 等 学 校 学 校 評 価 一 覧 表 ② (平成25年度版)

(様式2)

羅 針 盤		達 成 度			改 善 状 況 の ま と め	学 校 関 係 者 評 価	次 年 度 の 課 題	
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		①				②
I 特色ある学校づくりを推進する。	1 学力向上を根幹として、各学科(普通科、スポーツ科、芸術科)の目標達成に相応しい教育課程を編成・実施する。	・習熟度別授業(数学・英語)に85%の生徒が満足している。 ・専門教科の授業に85%以上の生徒が満足している。		A	B	B	各科の教育実践による成果と課題が明確である。また、きめ細やかな指導は大変ありがたい。特にスポーツ科・芸術科における地域の小学校や特別支援学校、県有施設等との連携事業は生徒の経験の場として有効であり、充実した学校生活の一端を担っていると言えよう。地域としてもさまざまな協力で感謝したい。目標設定において、大学進学だけでなく特色を活かした教育を実践し、個々の生徒の力を伸ばしてほしい。	普通科・スポーツ科・芸術科の3科による特色ある教育実践の成果と課題が明確化した今、それぞれの目標設定をもう一度検討する必要がある。例えば3科に共通するところでは、大学進学だけを指すのではなく、地域交流や国際交流等の多様な体験の場を設定し、それらを踏まえた上でのキャリア教育を展開することにより、生徒はさらに充実した学校生活を実感することができる。
	2 全職員が学校課題について共通理解を持ち、組織的な指導を展開する。	・各職員が[本年度の重点目標]、「羅針盤」を指針として自己目標を設定し、教育活動の改善に努めている。		B	B	B		
	3 生徒の信頼に応える指導を基本とする。	・自分の学校を好きだと感じている生徒の割合は、80%以上である。		A	A	A		
II 生徒に健全で意欲的な学校生活を送らせる。	4 基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図る。	・登校時指導等を通じて、あいさつ・服装・遅刻防止に関する指導を進め、生徒のあいさつができているという評価が70%以上(教職員アンケートによる)、服装頭髪指導の係指導の対象となる生徒が10名以下、遅刻指導該当者が年間15名以下である。		B	C	C	昨年度よりも遅刻者が増加したとはいえ、ここ数年における生徒の遅刻者減少傾向は朝読書の成果によるところが大きい。生徒の時間に対する意識の変化というものが期待できる。また、落ち着いた朝のスタートができる点も生徒の問題行動数減少から教育的効果が見られる。今後ともぜひ継続してほしい。 部活動では中学校においても指導や練習が厳しい部活動は人気下がりの傾向にある。体力と精神力の育成が不可欠と言えよう。対外的な活躍が目覚ましい部活動が多く、今後益々の活性化を期待したい。	遅刻指導・頭髪服装指導の該当者、問題行動件数の増加傾向については主に学年の前半に見られることから、生徒にとって新しい環境に上手に適應することができるよう、担任・生徒指導係等が中心となって職員全体で共通認識を持つて留意していく必要がある。生徒会行事においては、生徒会役員や各実行委員会を中心に生徒が自主的に取り組むことができるような行事を精選する。部活動の指導体制に関しては、特に運動部における技術面の指導等専門性を備えている教員に限られているため、生徒の満足度に表れている。若手教員を中心に指導体制を見直し活性化を図っていく。
	5 交通安全の意識を喚起し交通ルール・マナーの向上を図る。	・自転車点検や事故防止啓発活動を通じて、過失事故や重大事故を0にする。		B	B	B		
	6 生徒会行事等の内容充実を図り、生徒の自主性を伸ばし達成感を得させる。	・蒼流祭や送別会等の生徒会行事に満足している生徒が85%以上である。		A	A	A		
	7 部活動の振興に努め、活気ある学校づくりを進める。	・部活動に加入している生徒が、70%以上であり、充実していると感じている生徒が70%以上である。		B	B	B		
III 生徒に確かな学力・豊かな心を身につけさせる。	8 双方向の授業への取組を進める。また生徒一人一人に対応した指導を行う。	・学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が80%以上である。		B	B	B	言語活動の充実や生徒のコミュニケーション能力の育成等の実践を通じ、進路への目的意識を早期に持たせている。基礎学力の定着においては生徒が自ら動くことのできる自主学習力を育成することや生徒が学ぶ姿勢を身につけさせることが重要である。	学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を継続しているが、教師の説明や講義が主体といった授業展開から生徒が積極的に発言や発表をするといった生徒主体の授業を構築していく。 また、課題についても消化することが目的とならぬよう、内容や方法を見直す。
	9 授業時間を確保する。また、授業と家庭学習を結び基礎的な学力を定着させる。	・生徒の家庭での1日の平均学習時間は、1・2年生で80分以上である。 ・実用英語技能検定の合格者が、2級5名、準2級40名以上である。		C	C	C		
	10 継続的な読書を通じて知的・感性的に自らを鍛える習慣を育てる。	・「朝の読書」を含め、生徒が1年間に12冊以上の本を読んでいる。		B	B	B		
IV 生徒に進路目標を達成させる。	11 自らの進路への関心・意欲を高揚し、学習意欲の向上を図る。	・将来の職業や卒業後の進路について考え、進路実現のための課題を意識できた生徒が80%以上である。		A	A	A	義務教育段階において、進路実現に向け心が折れそうになる生徒が増加している。これは失敗や挫折の経験が不足しているからと言えよう。高校での進路指導に期待している。	3年間を見通した系統的な進路プログラムを組み、進路の学習や行事を通して、考察力、文章力、発表力等を育成していく。
	12 進路指導に関する情報を共有し3年間を見通した系統的な指導を行う。	・進路を考えるのに進路関係の行事や学習が役立っていると思う生徒が80%以上である。		B	B	B		
V 生徒の心身ともに健康で安全な生活が送れるようにする。	13 生徒自ら健康の保持増進に努める姿勢確立のため自己管理に関する指導を進める。	・生徒の健康診断に基づく受診率50%以上。 ・熱中症やインフルエンザの予防に関する情報提供を適切に行う。		A	A	A	完全な不登校になってしまうと、進路変更を考える家庭も多い。そうなる前に学年間の連携等組織的に迅速な対応を図り、不登校の生徒をなくしてほしい。	教育相談に関して、生徒にとって気軽に相談しやすい環境を整備し、相談事例については保護者や担任・学年と連携を図り、スクールカウンセラーを中心に組織的な対応を徹底していく。また、必要に応じ、児童相談所や医療機関・警察等と連携し、生徒の安全確保・保護に努めていく。
	14 心身の健康問題を抱える生徒への適切な対応や指導を行う。	・不登校の生徒0を目指す。		B	B	B		
	15 学びの場としての教室等の環境の整備・美化に努める。	・校舎校庭の清掃・美化に努める。		A	B	A		
VI 開かれた学校・信頼される学校づくりを進める。	16 保護者との共通理解を促進する。また、地域社会との連携を図る。	・PTA総会、専門学科ガイダンスに積極的に参加している保護者が、前者が50%以上、後者が、80%以上である。		B	B	B	学校Webページは大変充実していた。特にスポーツ科・芸術科のブログは更新頻度が高く、最新の取組の様子がよく分かる。スポーツ科・芸術科における地域の小学校や特別支援学校、県有施設等とのさまざまな連携事業は地域に根ざした県立高校としての存在価値が高く、今後とも協力をお願いしたい。	学校Webページにおける情報発信の他、保護者あてメールの活用を徹底する必要がある。特に自然災害等による校時変更や保護者あて通知の発送確認などより効果的な運用を行っている。
	17 webページやオープンスクール等により学校の活動を公開し、外部の意見を取り入れる。	・学校のwebページを月2回以上更新している。オープンスクールで「学校の様子がわかった」と80%以上の参加者が答えている。		A	A	A		
	18 校内研修等を通じて職員の使命感の自覚、指導力の向上等に努め、信頼に応える。	・服務規律に関する啓発を職員会議等で年10回以上行っている。教科別の研究授業、授業研究を実施し、授業力の向上を図る。		B	B	B		